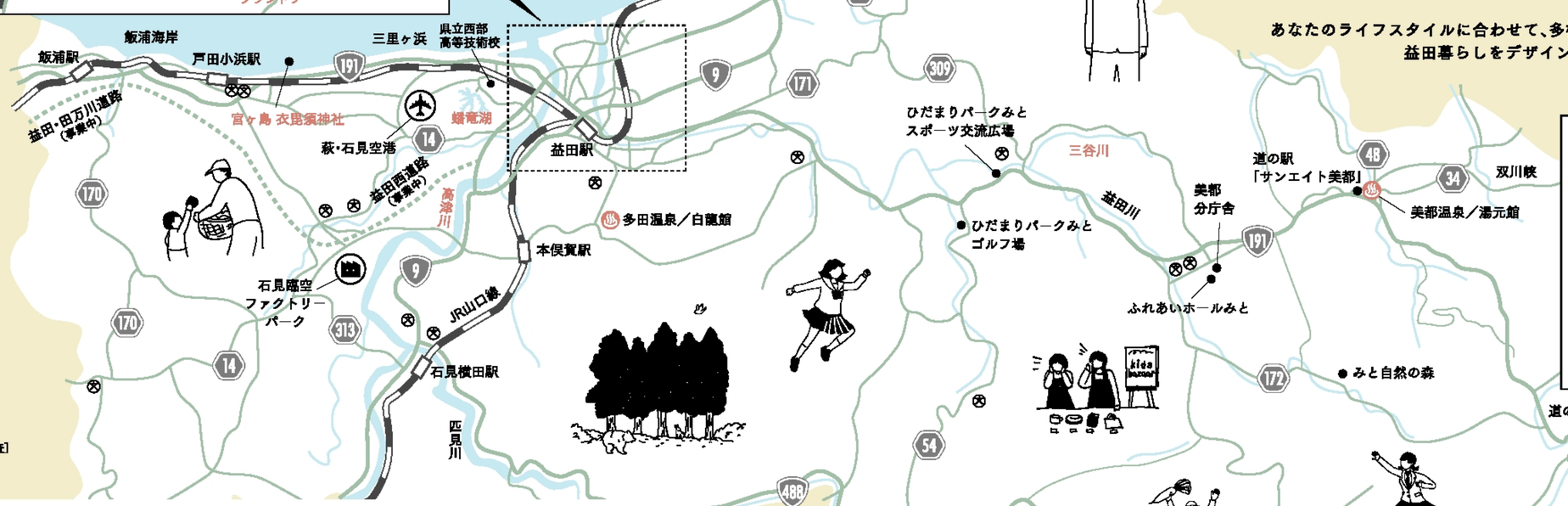
ひとが育ち
輝くまち
益田

MASUDA



あなたは、どう生きたいですか。

豊かな自然環境に支えられて、多様な"暮らす場"を選ぶことができます。
空港・商業・娯楽施設が立ち並ぶ都市部、オーシャンブルーが広がる日本海に面した港町、
清流日本一を誇る高津川の恵みにあずかる農村集落、中国山地の広大な自然に囲まれた山村。
あなたは、どこで暮らしたいですか。

終業時間が、全国でもトップクラスに早い島根県だからこそ、いろんな時間を持つことができます。
仕事の時間、家庭での時間、つながりを大切にした地域での時間、
神楽などの伝統芸能に勤む時間、家庭菜園や釣りなど趣味に没頭する時間。
あなたは、どんな毎日を過ごしたいですか。

あなたのライフスタイルに合わせて、多様な"暮らす場"と"生き方"に満ちた
益田暮らしをデザインしてみませんか。

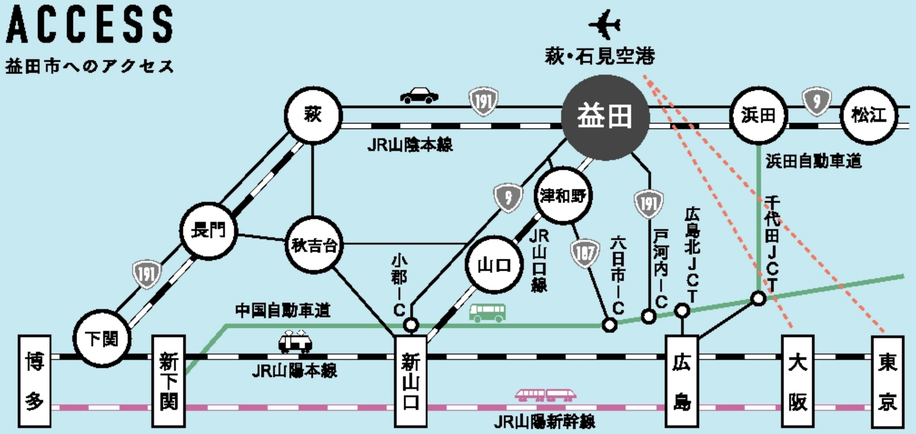
余暇時間
全国1位（島根県）
※出典:2011
総務省［社会生活基本調査］

益田のひと MAP

益田のひとホームページに掲載のある取組みについて、どんな場所で行われているのか、ご覧いただくことができます。また、気になった取組みに対して、質問などのコメントやいいね！をすることができます。

ACCESS

益田市へのアクセス



飛行機
萩・石見空港
（益田駅までバスで10分）
- 羽田空港から …… 1時間30分

自動車
浜田ICまたは、戸河内IC 経由
- 東京から …… 11時間
- 大阪から …… 5時間30分
- 広島から …… 2時間

新幹線・列車
新山口駅まで新幹線→山口線の特急
- ［東　京］から …… 8時間
- ［新大阪］から …… 5時間
- ［広　島］から …… 2時間30分

高速バス
- ［大　阪］から …… 7時間
- ［広　島］から …… 2時間45分

夜行バス
- ［大　阪］から …… 8時間

清流 高津川の水質
全国1位(益田市)
※出典:2006、2007、2010、2011
2012、2013、、2019年
国土交通省［水質調査］

ABOUT MASUDA

※2024年4月1日現在

［位　置］ 島根県の西端にあって山口県と接しており、北は日本海を臨み、南は中国山地に至る、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地です。

［地　勢］ 本市の北部は日本海に面し、海岸は白砂青松の石見海を形成しています。南部は中国山地に至り、恐羅漢山、安蔵寺山などの山々が連なっています。また、中国山地に源を発する一級河川高津川及び益田川が主要河川となり、日本海に注いでおり、下流部には益田平野が三角州状に広がっています。面積733.19平方キロメートルで、島根県の総面積6708.27平方キロメートルの約1割を占め、総面積の大半を林野が占めています。特に、美都地域、匹見地域では、9割近くを山林が占め、急峻な山々に囲まれています。

［気　候］ 平均気温は15～16度で、年間の降雨量は1,500mm～1,700mm程度となっています。積雪については、平野部は対馬海流の影響を受け温暖で少なく、山間部でも近年は暖冬の傾向があり、降雪量も少なくなっています。

［人　口］ 総人口43,327人、65才以上17,158人、高齢化率39.6％、18才未満6,122人、世帯数21,156世帯

［施設数］ 33保育園（うち7園は認定こども園）、3幼稚園、15小学校、17放課後児童クラブ、9中学校、4高等学校、その他3専門学校等

TOURISTS SPOTS

益田市の魅力は色彩の豊かさ

石州瓦の赤瓦が特徴的な赤色。山々が連なる中国山地の緑色。
オーシャンブルーの日本海、日本海へと続く高津川の青色。
暗闇に飛び交うホタルの黄色。夜空に浮ぶ満点の星空の白色。
色彩の豊かさは、益田のひとの心の優しさ。
益田のひとの心の優しさこそ、益田市の魅力。

① 衣毘須神社
昭和を代表する日本絵画の巨匠・東山魁夷が宮内庁から障壁画の依頼を受けた際にモデルにした場所です。(障壁画「朝明けの潮」)碧く美しい海に囲まれ、白い砂浜でつながる「宮ヶ島　衣毘須神社」への参道は、潮の満ち引きにより刻々と姿を変えます。さらに、大潮の時には参道が消え、島へ渡れなくなることから『山陰のモンサンミッシェル』とも呼ばれています。

② 蟠竜湖
海風に吹き寄せられた砂丘が隆起し、海岸の谷がせきとめられた堰塞潟湖といわれています。その発生については、長者伝説などが伝わり、多くの謎を秘めています。その名は、竜がわだかまった形に似ていることからつけられました。上の湖(周囲4km、面積8.3ha)と下の湖(周囲2.1km、面積3.5ha)にわかれた淡水湖で、水深は10m以上あります。生息する魚類はコイ、フナ、ウナギ、ナマズなど。

③ 三谷のゲンジボタル
毎年５月下旬から６月下旬にかけて町内各地でほたるの乱舞が観賞できるため、シーズンには、市内をはじめ、県内外から多くの方が観賞に訪れています。毎年ほたるを見ることができるのは、日頃から、ほたるの生息時期を避けての草刈りや、農業集落排水施設の設備等による河川浄化活動など、地域住民が一丸となって環境保全活動に取り組んでこられた努力の賜物と言えます。

④ 高津川
国土交通省の水質調査で何度も日本一に選ばれている、益田市の象徴。日本で唯一ダムのない一級河川としても有名です。この日本一の清流の恵みを受ける食材は、まさに味も日本一に匹敵するほど。高津川流域のブランド品でもある「鮎」は、全国から釣りファンが集まるほどの人気。また、河口付近で収穫される「大ハマグリ」は厳しい自主規制によりもたらされる逸品です。

⑤ 匹見峡
前匹見、奥匹見、表匹見・裏匹見と４つのエリアに分けて異なる景観を楽しめる匹見峡。4つの匹見峡の入り口となる前匹見は、国道488号線沿い匹見川中流域から約１ｋｍにわたる渓谷で、天狗岩などといった奇岩が見ることができます。奥匹見は駐車場から1.1ｋｍの渓谷で、最奥部にある落差53ｍの「大竜頭」の滝は圧巻。

⑥ 島根県芸術文化センター「グラントワ」
全国でも珍しい、美術館と劇場が一体となった建物です。フランス語で「大きな屋根」を意味し、施設の愛称にもなっている「グラントワ」の名の通り、大きく広がる屋根だけではなく壁一面にも地元の石州瓦が敷かれています。また、石州瓦特有のガラス質の表面が光彩を放つことにより見る角度や時間帯によって建物の印象が変わるため、まさに建物全体が１つの芸術となっています。

ひとが育ち輝くまち益田 を目指します。

益田市は若者がUIターンし定着したくなるような魅力にあふれています。
子育てしやすい、働きやすい環境の中で、起業したい、
地域を元気にしたいという意欲のある若者が増えつつあります。
行政だけでなく、教育機関、地域、企業、民間団体が一丸となって
「ひとが育ち輝くまち益田」をつくり上げます。

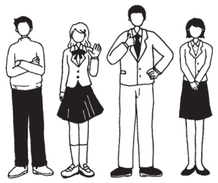
- 安心して子育てできる益田の実現
- ＵＩターンの推進
- 地域の活性化

学び

成長

1.“未来”に輝く

充実したライフキャリア教育に学校・家庭・地域で育むふるさと教育。子どもたちは「対話＋」を通じ、地域の様々な人と触れ合い、つながりを持ちます。豊かな自然と大人たちに囲まれ、子どもたちは大きく育ちます。



学び

成長

- 益田に帰って就職する学生の増加
- 若者の起業の増加
- コミュニティビジネスの創業

ひとづくりの環（わ）

2.“地域”で輝く

益田市はあなたのオモイをカタチにできるまち。子どもたちは、「つろうて子育て」の中で、地域の魅力を高める活動を経験します。若者や移住された方へは、地域活動への橋渡しを行う「地域づくりびと養成講座」を通じて「やりたい」の実現を手助けします。

協働・学び

3.“しごと”で輝く

子どもたちは「益田版・職場体験」に参加し、地元の産業を知りながら、「益田のひと」の生き方や多様な価値観に触れます。「UIターン者サポート宣言企業」は移住者を積極的に受け入れ、安心して仕事ができるよう応援します。

学校・地域・行政・NPO・企業

- 幼児期から高校生までを対象に、ライフキャリア教育によるふるさとを学ぶ場や地域活動に参画する機会の創出を推進し、未来の担い手を育成します。
- 育った人材が大人となり、産業振興をはじめとした地域の課題を解決していく地域の担い手、あるいは地域資源を活用し地元の産業を支える担い手となって、地域の活力を維持していきます。
- さらに、この担い手が、今度は次世代のロールモデルや指導者となって新たな人材育成に関わっていくとともに、自らも学んでいくという「ひとづくりの環（わ）」を作り、持続可能な人材育成サイクルを作り上げます。

“ひとが育つまち益田”についてはこちら▲

益田市の“移住”“定住”支援

ますだ暮らし定着支援事業助成金

安定したますだ暮らしの実現、益田市への定着を図ることを目的として、益田市内の事業所等に就業するUIターン者、新規学卒者に対して助成金を交付します。

基本額 2万円

［加算額］
- 若者加算：8千円
  申請時に39歳以下の方
- 企業就職加算：8千円
  UIターン者サポート宣言企業に就業される方

“ますだ暮らし定着支援事業助成金”についてはこちら▶

益田市空き家BANK

益田市は空き家バンク制度を設け
空き家の情報を提供しています。

この制度は、自分の持っている空き家を賃貸もしくは売却してもいいというお考えをお持ちの方と、益田市での生活のために住宅を探している方にその意思を登録していただき、空き家の有効活用を図る制度です。

“益田市空き家バンク”についてはこちら▶

MASUDA

1.“未来”に輝く

ライフキャリア教育で未来をつくる	ライフキャリアとはワークキャリア、家庭生活、個人の活動（趣味や自己啓発）、地域での活動などを包括的に考えていくもの。時代とともに、私たちの環境は変わり、状況も変わります。昔の大人たちでは想像できなかった未来が現在あり、私たちが見ることができない未来を子どもたちは生きていきます。そうした中で、価値観も変化をし、職業そのものの種類やあり方も変わっていくでしょう。変化に臆することなく自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むのが「ライフキャリア教育」です。
対話＋	1 対 1 の対話を通し「これまでの人生と、これからどうありたいか」自分自身の生き方について考えることで、自分の「心に火を灯す」授業です。小学生×高校生、中学生×地域の大人、高校生×益田の大人の対話を通し、児童・生徒が自分の可能性を信じて一歩踏み出す力に繋がっています。
益田版・職場体験	仕事を体験することがメインではなく、日々生き生きと過ごす「益田のひと」の生き方や多様な価値観に触れ、自分自身の生き方を考えるプログラムです。「普段どんなことを大切にしてひと・もの・ことに接しているのか」など、大人のひととなりに触れることにより、自分はプログラムを通してどんな“ひと”になりたいかといったことを考える機会です。
つろうて子育て	「つろうて」は（みんなで）連れだってという意味の益田の方言です。「つろうて」を合言葉に、子どもの育ちを家庭や学校任せにするのではなく、地域一体となって子どもの成長を支える仕組みです。益田市では各地区で公民館が事務局となり、「つろうて子育て推進協議会」を立ち上げ、子どもを中心に据えた様々な取り組みを行っています。

2.“地域”で輝く

人生の転換期は福祉に携わったこと

児童自立生活援助事業所雪舟ホーム
施設長　関口 晃司 さん

普段は自立援助ホームの運営のみならず、多数の福祉機関に関わりながらご活躍されています。今回は、運営されている自立援助ホームだけでなく、小規模住居型児童養育事業や保護司の活動についてもお話を伺いました。

ー　益田市にUターンされたきっかけはなんですか。

生まれは匹見町の紙祖というところ。高校進学後は益田市内で寮生活、就職を機に地元を離れ名古屋・大阪で生活をしていました。ある時、テレビを見ていると地元の匹見町が台風の被害にあっている状況が映され、地元が気になり久しぶりに戻ってきました。

ー　日々忙しさに追われながら生活をされているなと想像するのですが、息抜きのような時間はありますか。

出張の時などにもカメラを持ち歩き、写真を撮るのですが、写真を撮るときだけは構図だけに集中できて没頭しています。保護司をしなかったら、見つけることができなかった趣味だと思うので、そういった意味でも保護司に関われてよかったなと思います。

ー　今後の目標を教えて頂きたいです。

夫婦で専門里親として2か所で受け入れをしているので、夫婦で一緒にいる時間が少ない状況です。夫婦の時間も大切にしたいという気持ちがあるので、いつか今行なっていることすべてが一つの建物でできたらいいなと思っています。

続きはこちら▶

3.“しごと”で輝く

「恩師のライフキャリア」

益田養護学校
下地 美桜奈 先生

ー　サッカーに明け暮れた学生時代

益田生まれで、中学まで益田で育ちました。小学生の頃から続けていたサッカーでもっと高みを目指したいという思いから、高校は新潟にある帝京長岡高校へ進学、大学で教員免許の取得を目指しつつサッカーも続けました。社会人になってからも現役選手としてプレー。怪我がきっかけとなり、現在は地元に戻り学校で体育を教えています。

ー　故障をバネに、サッカー指導者の道へ

両膝の怪我を経て、今後も現役を続けるとしても、もしまた怪我をすることがあったら正直怖いという想い、それならば、プレイヤーではなく、益田で指導者として、「人に教える立場でサッカーに関わりたい」と考えるようになりました。

ー　「楽しい」が「好き」へそして「幸せ」へ

楽しいから始めたことがどんどん好きになって、というのは、自分にとって素敵なことだったなと。「楽しい」が「好き」になって、「好き」という気持ちがさらに「幸せ」になるなって。スポーツと恋愛は似ている感じがあるって勝手に思っているんですけど、それがたぶん、自分にとってはサッカーだったんです。

ー　何もないからこそ自分たちの手で

自分も小さいころは、益田って何にもない町だと思うことがありました。でも「何もないからこそ、自分たちの頑張りで何もかもがある世界になれる」って、今は考えています。
自分にとってはサッカーが益田に戻る理由にもなったんですが、サッカーに限らず益田という地域に、どういう形でもいいので多少なりともつながってくれていたら、そこが帰る原点になるのかなって思います。

続きはこちら▶

ひとが育ち輝くまち益田

Masuda Life

発行元 / 益田市役所 連携のまちづくり推進課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL:0856-31-0173

E-mail:teiju@city.masuda.lg.jp

発行日：2024年7月8日